



AI に負けない絵画の創造性

洋画部長 塚田 稔



2024 年度 71 回日府展本展、並びに洋画部展ではご苦勞様でした。芸術は人間の文化として長い歴史を持ち進化してきました。この芸術と急速に発展している現在の AI 芸術と比較することからその重要性を考えてみましょう。

この発展の根底には、デジタルコンピュータの急速な発展があると言えます。それはメモリ容量の増大と半導体の演算速度（ナノセックオーダー）によるところが大きいといえるでしょう。それに加え、今年度のノーベル物理学賞に象徴されるように脳の神経回路網の研究が加速的に発展し、その情報処理の特徴の一つである人間の持つパターン認識の機能を人工神経回路網によって実現できていることにあります。具体的には、回路網の層構造を多重にすることによる特徴抽出機能（目立っている特色で事象を表現する機能）を向上させた技術（これをデープラーニング技術と呼んでいる）と教師無し学習機能（先生がいなくても神経回路網が自ら反応して学習・記憶するルールでヘブ学習則と強化学習の併用）にあると言えます。さらに、インターネットなどの普及による多量の間知識データの収集が可能になり、そのデータの統計最適化技術と相乗して人間の優れた知識情報の抽出が可能になっている点に注目する必要があります。しかし、AI の欠点も理解しておく必要があります。なぜ、このような欠点のある AI に人間が支配されなければならないのでしょうか？ AI にはすぐ要求の最適な結果を与えてくれる便利さにあります。コンピュータが日常化し便利に使えるようになったのと同様です。しかし、便利だからと言ってこの AI に支配されることはないのです。

芸術は古い歴史を持ち、優れた創造的人間を創りだすのに貢献してきました。人間は仮想現実の世界を創り出し、現実世界とコミュニケーションによる相互作用による情報統合によって新たな情報を産み出しています。さらに、絵画は観る鑑賞者とのコミュニケーションもあります。そこには共感を通じて新しい情報が生まれます。このようなコミュニケーションによる情報創成の原理は現在の AI にはできないのです。

これは文化として長い歴史の中で絵画が獲得した世界であり、にわかに発達した AI 芸術とは全く違うのです。この違いが判らない人は AI の奴隷になることでしょう。しかし、油断は大敵です。このような理解に安住するのではなく、常に新しい情報創成に向けてダイナミックに前進することが重要です。人間の記憶の場“海馬”では新しい情報に敏感であるとともに、さらに新しい細胞が生まれていることが知られています。

自分に内在する情報と自分にない外部から与えられた情報を比較し今までの自分と新たな自分を創ることです。そこには価値の転換が重要です。いままでの価値によって築き上げた自分を転換させるためにはそれまでにない価値を見つけ出さなければなりません。単純ではないのです。このようなコミュニケーションによる情報創成の原理は現在の AI にはできないのです。

今年度の日府展本展、並びに洋画部展の作品を通じて感ずることは、各出品作品は個性的でかつ互いに作家の特有の世界を描いた作家ワールドが表現されています。このことは外部評価委員の先生達からも評価されています。しかし、これに甘んずることなく一段と新しい価値を求めて前進しましょう。

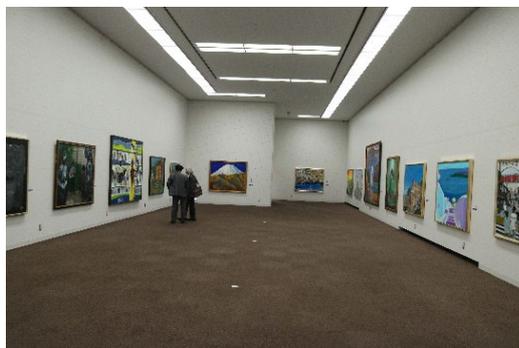
第 71 回日府展報告

第 71 回日府展東京展は、5 月 19 日(日)～27 日(月)
(20 日休館)に東京都美術館 1 階第 1, 第 2 展示室で開催されました。

文化庁、東京都、群馬県、長野県、練馬区、東京新聞からの後援を頂きました。

全体では、ジュニアを含め 179 名による、217 点の作品が展示されました。うち、洋画部は正会員(準会員を含む)35 名、一般 3 名の 38 名が、45 点の作品を出品しました。

期間中の入場者数は 3,369 名(前回比 110 名減)でした。なお休館日があったので、1 日あたりの入場者は 30 名増でした。



71 回日府展の全作品はホームページでご覧になれます。URL は
<https://nipputen.sakura.ne.jp/exhibition/71kai/tokyo.html>

71 回日府展ギャラリートークを開催しました

初日(5 月 19 日)3 時から、篠原一成氏(全日本美術新聞社関東支社長)を講師にお招きし、洋画部展会場においてギャラリートークを実施しました。出品者が作品を前に作画意図などを述べ、講師および審査員が講評しました。



市民講座【生成 AI 以降、人間の創造性】を開催しました

会期中の 5 月 26 日(日)午後 1 3 時より東京都美術館講堂にて市民講座が開催されました。

講演会記事

- ・甘利 俊一(東京大学名誉教授、文化勲章)
日本における AI と脳科学の研究
- ・福島 邦彦(元大阪大学教授、現在ファジーシステム研究所・特別研究員)
生物の脳に学ぶ未来の技術-- 視覚の人工神経回路 --
- ・塚田 稔(日府展理事、玉川大学脳科学研究所・名誉教授)
AI と人間の創造性

講演会解説

今回の講演は 日本の脳のニューラルネットの研究(現在の AI の発展)の原点であり世界をリードした研究者の講演でありました。

今回のノーベル物理学賞(ホップフィールド と ヒントン)は甘利・福島が授与されてもよかったと思われるほどの日本の研究者の貢献がありました。この研究は人間の脳の記憶・学習の一部である平均値(共通要素)の学習であり今後は揺らぎ学習に発展することが期待されている。

洋画部会・洋画部懇親会が開催されました

5月26日（日）の11時より東京都美術館講堂にて洋画部総会が開催されました。

議題1、日府展の財政状況から判断し、日府展事務所をこれまでの日府会館から同じ最寄り（練馬駅）近くの事務所*に移転することになりました。

また、来年5月の日府展東京展につきましては、東京都美術館の展示会場が今までの2室使用から1室使用に変更になりました。

議題2、2024年度内の洋画部活動計画（秋季洋画部展、スケッチ旅行）についての説明がありました。（10月に予定されておりました別所温泉への「洋画部秋のスケッチ旅行」は人数の関係で残念ながら延期となりました。）

- ◆ 夕刻、洋画部員及び日府展出品者皆様の親睦を深め、今後の制作活動への活力とさせていただくために「はなの舞上野店」で親睦会が開催されました。受賞者の皆様他、参加者の皆様からもご挨拶を頂きました。

秋季洋画部展がギャラリーくぼたで開催されました 2024年9月9日～15日

今回から3階の会場のみでの開催となりました。

32名の方々のご参加をいただき、新たに4名の方にもご出品いただきました。初日には会場でオープニングパーティーも開催され、会員同士のふれあいもさることながらお互いの出品作品についての意見交換の様子も活気があり、洋画部の今後の活動に向けた心強い皆様の姿を見ることができました。会期中のご観覧者数は184名のご記入がありました。



秋季洋画部展の全作品は、ホームページでご覧いただけます。URLは https://nipputen.sakura.ne.jp/branch/youga_bu.html/

【ご連絡とお願い】

- ◆ 新年洋画部会は、2025年1月18日（土）に開催予定です。場所と時間につきましては後日お知らせいたします。
- ◆ 作品研究会は、2025年2月8日（土）に開催予定です。開催場所と開催形式につきましては後日お知らせいたします。
- ◆ 洋画部総務では皆様との連絡をスムーズに行うために、今後Eメールでの連絡を進めて参ります。（※洋画部のお知らせ以外には使用致しません。）洋画部総務、大野のEメールに空メールをお送りいただくと登録を確実に行えますのでぜひご協力をお願い致します。

（大野Eメール：thbmh242@yahoo.co.jp）

*日本画府新事務所 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北5-23-15 竹内ビル401号室

TEL: 03-5838-5881